

設計チームによるワークショップ編

今回の
注目パソン



一級建築士事務所/o+h
大西 麻貴さん
昭和58年東京生まれ。東京大学大学院卒。博士課程在籍中、百田有希氏と設計事務所を設立。学生時代から数々の賞を受賞するなど、近年活躍がめざましい若手建築家。

まちの未来に思いを込めた7日間

設計チームによる住民説明会や鳥越館長による座談会を経て、福智の新たな拠点の誕生へ、一步一步
歩みを進める福智町。ここでは、赤池支所で7日間開かれたワークショップの様子をご紹介します。

必要とされる設計を 五感で捉えた7日間

平成28年度中に開館予定の「福智町立図書館・歴史資料館」の設計チームが、8月17日から1週間、福智町に滞在しました。現在、赤池支所のリノベーション(改築)設計図が練られている段階で、その細部を詰めるため、大西さんら一級建築事務所「o+h」など15人が支所内に臨時事務所を設置。滞在期間を活用して、映画上映の映像環境やものづくりを行うために必要な設備の調査、外壁に使用予定の郷土・リサーチなど、本社を構える大阪や東京ではできな

い、情報収集を行いました。東日本震災後の被災者支援で「ごとのみんなのいえ」を手がけた際にも半年間、小豆島でも約10日間滞在し、その地に合った設計にこだわる大西さん。「建築が大好きでこの仕事を選んだので、手がけるものにはベストを尽くし、誇りややりがいを持って取り組んでいます。建築はこの先何十年もその場所に残るからこそ、利用者の等身大の感情が欠かせない観点。実際に滞在し、多くのかたに会い、意見や声を直接聞くことで、一歩踏み込んだ設計につなげたい」と滞在の意義を語ります。「住民が図書館・歴史資料館に求める本当の機能や空間は、担当者との電話や半日程度の滞在では分かりません。肯定的な意見も批判的な意見も直接聞き、また長期間滞在してまちの時間をともにすることで、求められる機能や空間を私たち自身も五感で感じることができず。外からの目・中からの目の両方を持ち、福智にしかない、だれもが居心地のいい空間を生み出します」と7日間を反映した設計に意欲を燃やしていました。



1. 赤池支所に臨時事務所を設置。2~5. 拠点完成後に実現可能なイベント案を試験的に実施。6. バーベキューで住民と意見交流。7. ふくトラによる突撃取材。8. 外で読書体験を行う青空図書館。9. 中学生と入念な打ち合わせ。10~12. 来場者の意見を集約し、設計図と完成予想模型を再作成。

13~15. 200人を越す来場者が詰めかけた成果発表会。ワークショップの作品や壁新聞「ふくちから」も展示。16~17. マルシェやプラネタリウムも同時開催。18. 現時点での設計案を紹介。19. 完成予想館内ツアーを実施。20. メンバー全員で記念撮影。

3校生徒会が結成
「ふくトラ」始動
FUKUCHI TRIANGLE
新しい拠点作りを通して、まちの未来を考える「ふくちから」第1弾を発行
設計模型付立体新聞



私 たちのまちだから、私たちも一緒に考えたい。そんな熱い思いが結実し、中学生発のプロジェクトチーム「ふくトラ (FUKUCHI TRIANGLE)」が結成されました。名前やロゴも生徒が考案し、3町がひとつになる三角形をモチーフに頭文字の「A・H・K」を配置。思いの込められた旗印の下、リーダーを務める倉石一輝さん(金田中生徒会長)は、「作っているのは図書館・歴史資料館ですが、同時に「まちの未来」も築いていると感じています。設計チームとともに僕たちも何か出来ないかというアクションを起こし、この活動をきっかけに、福智から筑豊を変えていきたい」と発表会で意気込みを語りました。ワークショップの7日間、ふくトラは「まちの新しい拠点作りにもっと興味を持ってもらいたい」と、設計チームから企画・取材・編集のノウハウを学びながら、図書館建設の今を伝える壁新聞「ふくちから」を発行。今後活動も継続し、まちの未来を発信していく予定です。※作成した新聞などは、9月から赤池支所の特別ブースに展示しています。



倉石一輝さん

まちの未来を考える 若き力がチーム合流

「滞在期間中、もう1つ、うれしいことがありました」と、大西さんが笑顔を向けたのは、赤池中・方城中・金田中の生徒会が結成した、図書館・歴史資料館を考える町民グループ「ふくトラ (FUKUCHI TRIANGLE)」。7月17日に開かれた「住民説明会」をきっかけに3中学校の生徒会が全面協力を表明し、滞在期間中のワークショップに毎日参加しました。「初ミーティングでどんな拠点にしたいか聞くと、高齢者・障がい者など分け隔てなく、福智の魅力が発信できるような施設に」といった意見が出て驚きました。自分たちのためだけでなく、住民全員のためにどんなこともやります」と言ってくれた彼らと変えていけるという確信を持ちました」と、大西さんは喜びを振り返りました。

8月23日に行われた成果発表会まで、あわせて26人(高校生5人を含む)のふくトラメンバーが参加。新しい設計を盛り込んだ模型作りや住民の意見を集めるインタビュー、発表会の設営に至るまで、設計チームの運営をサポートしました。「建築はまちのハード面にかかりますが、まちの未来を考えると、壮大なソフト面でも関わることが楽しみです。エネルギー溢れる「ふくトラ」メンバーとともに、だれもが使いやすい、居場所がある空間を目指します。まちとともに成長できる新たな拠点を、みなさんと一緒に作り上げていきたいです」と、大きな支えを得た新進気鋭の若き設計者はその目を細めていました。